

# 令和6年度(2024年度)第2回吹田市高齢者生活支援体制整備協議会

## (すいたの年輪ネット)議事録

### 1 開催日時

令和6年11月6日(水) 午後1時30分から午後3時35分まで

### 2 開催場所

吹田市立千里市民センター 大ホール

### 3 出席者

#### (1) 委員

委員長 新崎 国広 委員(ふくしと教育の実践研究所 SOLA 主宰)

矢上 敬子 委員(吹田市ボランティア連絡会 会長)

内山 博 委員

(特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク吹田(友遊悠)前代表)

増田 左知子 委員

(NPO 法人 市民ネットすいた(吹田市立市民公共活動センター指定管理者)理事)

山根 良寛 委員(吹田市人権啓発推進協議会 副会長)

森 俊弘 委員(一般社団法人吹田市高齢クラブ連合会 常務理事)

氏平 友子 委員(吹田市民生・児童委員協議会 会計監査)

栗田 智代 委員(社会福祉法人吹田市社会福祉協議会 副会長)

牧野 政江 委員(吹田市介護保険事業者連絡会 居宅介護支援部会 部会員)

星 久美子 委員(吹田市介護保険事業者連絡会 訪問介護部会 副部会長)

委員長職務代理者 新宅 太郎 委員

(社会福祉法人吹田市社会福祉協議会 地域福祉課課長・広域型生活支援コーディネーター)

佐本 一真 委員

(社会福祉法人吹田市社会福祉協議会 地域福祉課主幹(CSW 統括者・地域型生活支援コーディネーター)

増田 水里 委員(市民委員)

山中 拓也 委員(市民委員)

月野 敬介 委員(吹田市吹一・吹六地域包括支援センター)

#### (2) 事務局

竹本 和倫 高齢福祉室長

村山 靖子 高齢福祉室参事

重光 典子 高齢福祉室主査

徳山 義和 高齢福祉室主任

板谷 智史 高齢福祉室係員

広田 倫久 吹田市社会福祉協議会局長

#### 4 欠席委員

清水 泰年 委員(公益社団法人 吹田市シルバー人材センター)

吉田 友彦 委員(株式会社ダスキン ダスキンライフケア吹田ステーション 店長)

#### 5 会議案件

(1) 生活支援コーディネーターの主な活動報告について

(2) マンション交流会について

・作業部会報告

・マンション交流会について

(3) グループ協議

・第8期吹田健やか年輪プランの振返り

・第9期吹田健やか年輪プランにかかる高齢者等の生活と健康に関する調査報告書について

(4) その他

#### 6 議事の経過

**〔開会〕**

**〔傍聴者の報告〕**

**事務局：**

傍聴者は2名です。吹田市高齢者生活支援体制整備協議会の会議の傍聴に関する事務取扱要領には、原則公開としています。入室していただいてよろしいでしょうか。

**構成員：**

異議なし。

**〔資料確認〕**

**〔委員自己紹介〕**

**〔案件(1)：生活支援コーディネーターの主な活動報告について〕**

**委員長職務代理者：**

(資料1-1、資料1-2の説明)

### **C 委員:**

資料1-1の2 地域での高齢者支援から特徴的な取組を紹介します。①高齢者対象のスマホ講座については、現在進行形の取組として、北千里高校2年生の約320名による講座を16回開催予定としており、人気のある取組です。高齢者からは高校生の対応が丁寧でありがたいこと、高校生からは「これまでと違ったコミュニケーションを楽しめた」「スマートフォンの使い方を教えるだけだったが、地域の人々に役立っている達成感があった」という感想が聞かれています。社会福祉協議会(以下、社協という。)で取り組んでいる福祉教育の一環から広がってきたものとなっています。

②地域検討会については、地域包括支援センター(以下、地域包括という。)で取り組んでいる地域ケア会議に参画している介護サービス事業所とタイアップして、介護や福祉サービスを知ることが目的に歩きながらの介護サービス事業所巡り、豊一地区では介護フェアを開催しました。嬉しいのはこの地域検討会に参画していただいている地域の方が「この会議は楽しい」と言っていたということです。

今から3分程度の動画で取組紹介をします。(動画視聴)

何ができたかというより、地域の方々、専門職の方々がどういった協議を重ねられたかに重きを置いて、協議の中で辿り着いたといえます。今、9地区で取組がされているので機会があれば見学していただいてもいいかと思えます。

### **委員長:**

今見ていただいたように、いろんな工夫があって、それぞれの地域ごとに銀行や福祉施設等の対話から、「こういう事できたらいいよね」というのが形になり、高齢者の社会参画に繋がるなと思って聞かせていただきました。それでは次に移ります。

### **【案件(2):マンション交流会について】**

#### **委員長:**

作業部会のメンバーとなっただいただいているD委員から説明をお願いします。

#### **D 委員:**

(資料2-1、資料2-2の説明)

#### **委員長:**

作業部会に参加されたほかの委員から御意見や御質問はありませんか。

#### **B 委員:**

マンションの老朽化、居住者の高齢化は課題です。この交流会について各組織を通じてチラシの配布をされていますが、どれだけの人が参加されるのか楽しみです。

**委員長職務代理者：**

マンション住民である高齢者が増えていくけれど、交流する場がない、逆にマンションの強みをうまく生かしきれていないという課題がこれまでの議論でも出ていました。マンション住民の高齢化については、普遍的な課題として考えていき、次年度以降はブラッシュアップした内容で第2弾をやってもいいのではという意見が作業部会で出されていました。

11月1日から申込受付を開始しており、現時点で約20名の申込みがあります。地域包括では、特にマンション住民の方とのお付き合い、もしくはいきいき百歳体操で御一緒する機会があれば周知していただけたらと思います。マンション交流会は12月12日の午後2時から4時まで千里市民センター大ホールで行いますので、委員の皆様も御参加いただけたら助かります。

**委員長：**

それでは、本日のメインイベントであるグループ協議に進みます。

**[案件(3)：グループ協議について]****委員長：**

第8期吹田健やか年輪プランの振返りについて事務局から、第9期吹田健やか年輪プランにかかる高齢者等の生活と健康に関する調査報告書については委員長職務代理者から説明をお願いします。

**事務局：**

(資料3の説明)

**委員長職務代理者：**

(資料4-1、資料4-2、別添様式の説明)

今回だけでなく、次回もこの延長線で、2回に分けて5項目を終わらせるイメージです。こんなことできたらいいなという夢を一緒に語っていただけたらと思っています。事前課題として、5項目すべてに御記入いただいたかもしれませんが、まず関心のあるテーマを一つ選択してグループ協議を進めていき、各グループから出された関心事や課題を共有したあと、新崎委員長に総括していただこうと思っています。

**委員長：**

まずは報告書について、事務局や委員長職務代理者からお話していただきました。皆様、この報告書についての御質問はよろしいでしょうか。

**A 委員：**

資料4-2 (1)②地域での活動について、自立・要支援者の約7割が地域活動に参加、約

6割が地域づくり活動等への参加意向がある。約4割が活動・参加したい地域活動・ボランティア活動はないとあります。私もこの20年間活動をやってきたのですが、そのようなことを感じたことがありません。実際の活動の頻度をどのように捉えているのか、我々がやろうとしていることにどの程度関連しているのか教えてください。

#### **事務局:**

この調査は、要支援認定を受けている方と、何も受けていない方を対象にしたもので、地域での活動は、趣味関係、学習・教養、介護予防のための通いの場などへの参画について、具体的に聞き取らせていただく形になっています。他には、高齢クラブや近所の友人グループ等、そういったたくさんの項目があるのを大きくひとまとめにしているので、実感がない数字になっているかと思われます。

#### **委員長:**

委員からの御指摘は、地域活動への参加率がここまで高いとは、実践していても感じにくいということでしょうか。

#### **A 委員:**

そういうことなのですが、今からの作業にあたって、地域活動に参加者としての参加意向がある方が約6割を占めているということを前提としてやるわけなので、これがばらついていると全く違うことになります。約6割の方が地域活動に参加者としての参加意向があるということを前提とするならば、スムーズに話が進むような気がします。

#### **委員長:**

統計の妙ですね。文部科学省によると市民活動調査では、「ボランティアをしていますか」の質問には、「している」と回答するのは、約1割(9.2%)なんです。同省の調査で「困った人がいたら助けてあげたいと思いますか」、「社会的に弱い立場の人を助けるのは、国民としての当たり前だと思いますか」という質問には、逆に8割の方が「そう思う」と回答しています。だから、聞き方によってかなりのずれがあるということが、今の御質問の中では見えてくるかと思います。

今回の議論は、2つあると思います。意欲がある方がより、地域の活動に繋がり、参加するためにはどのようにしていったらいいかということ、もう一つは、社会と繋がりを持っていない高齢者の方をどのように参加に近づけていけるかという2つの考え方は、どちらもが大事だと思います。

事前課題とさせていただいたなかで、(1)生きがいづくりと健康づくり・介護予防の推進 (2)地域における支援体制の充実、それから(3)認知症の施策の推進 (4)生活支援・介護サービスの充実 (5)安心・安全な暮らしの充実という5項目で、グループワークを進めていけたらいいかと思います。

最初は、5項目のうち、一番関心がある分野を共有し、今回のみで5項目について十分に話し合うというのは難しいと思いますので、まずは皆様お一人お一人がどの項目について、これから協議していきたいかの項目の優先順位をつけてください。項目は一つでも二つでも構いません。まずは、6分間の中で、お一人1分程度で満遍なくお話進むように進めていただければと思います。それから、見学されている地域包括の方々については、御意見はお控えいただき、どういった意見が出ているのかを聞いていただけたら嬉しいなと思います。では、今から意見交換をお願いします。

### [グループ協議]

#### **委員長:**

それでは、各グループから議論を深めるテーマについて発表をお願いします。

#### **D 委員 (3グループ):**

(1) 生きがいづくりと健康づくり・介護予防の推進に決まりました。(2) 地域における相談支援体制の充実も迷ったのですが、取っかかりとしては(1)ということになりました。

#### **委員長職務代理者 (2グループ):**

同じですね。(1) 生きがいづくりと健康づくり・介護予防の推進、そしてそれに関連する項目として、(2) 地域における支援体制の充実とどう繋がっていくかということところです。特に活動の場の確保をどうするか。生きがいづくり、介護予防を推進するためには場が必要なもので、その場をどう確保していくのかが話題になっていました。

#### **C 委員 (1グループ):**

私達も(1) 生きがいづくりと健康づくり・介護予防の推進で議論を深めたいと思いました。

#### **委員長:**

よく考えれば、(1) 生きがいづくりと健康づくり・介護予防の推進は高齢者自身の課題です。それをどんなふうに支えていくかというのが(2) 地域における相談支援体制の充実や (3) 認知症施策の推進にも繋がってくると思います。すべてのところが繋がっているので、生きがいづくり、健康づくり、介護予防を推進するために、地域の方に汗をかいていただく部分、専門職の方々でこんな仕組みがあればいいなというお話をさせていただくということで、今から 25 分間、皆様で意見を出し合ってください、5 分間のまとめタイムを経て計 30 分とし、報告後にコメントさせていただきたく思います。では、今から 25 分間のグループ協議をお願いします。

### [グループ協議]

#### **委員長:**

では、グループ発表に移ります。

#### **D 委員 (3グループ):**

(1) 生きがいづくりと健康づくり・介護予防の推進の8つある課題の中で、地域活動への参加促進と地域活動に無関心な人への働きかけが大きなテーマとなりました。無関心な方にとのように働きかけるかを考えすぎると難しいというところがありますので、関心があっても一歩踏み出せない方への働きかけから考えると、性別では、男性は会社を退職後、地域に出て行くという方は少なく、女性の方が進んで参加しやすい傾向があることから、女性や子どもに焦点を当てた地域活動を進めていく中で、男性にも何か役割が必要という、主役になれるような誘い方ができたら、だんだんと広がっていくのではないかという意見が出ています。次回は具体的な話ができればと思います。

#### **委員長:**

グループ協議の中で万博の話も出ていましたね。私は 1970 年、当時高校生ですごく盛り上がっていました。昔の話じゃないけど、どんなふうに行ったのかを聞かせてもらおうとか、キーワードとして、温故知新ということが何かできたら面白いと感じました。NPO 法人で昔の万博の調査をしているところあれば話が広がりそうな気がちょっとします。

#### **委員長職務代理者 (2グループ):**

(1) 生きがいづくりと健康づくり・介護予防の推進で、その中でも、場づくり・機会づくり・仲間づくりの推進というところにスポットをあてました。

場には2つあり、物理的な場所と、あとは心理面での居場所を考えました。物理的な場は、約75%が共同住宅に住んでいるので、身近な集会室の上手な活用の仕方が考えられたらいいよね。福祉施設がクールスポットとして涼めるとか、トイレを貸せるとか、使えることをマークで掲示するとかの福祉施設の場の活用、ほかには、買い物ついでに寄る場に何らかの仕掛けがあれば交流の場が生まれるのではないかと考えました。

実際に一人暮らしの高齢者はイートインスペースを覗いて、誰か知り合いがいないか確認していることがあり、休憩する場というよりは、出会いや交流の場だったりすると思っています。

もう一つは小・中学校での高齢者の活躍の場も必要ではないかということで、心理面の場になりますが、仕事、趣味、特技を活用できる居場所もあるといいねという話をしていて、PTA活動で写真撮影してくれる、パソコン入力してくれる高齢者の方がいると PTA ともウィンウィンの関係が築けるのではないか。学校に高齢者が入ることで子ども達への気づきの目が増え、報告や連絡を通しての交流が生まれるかもの話で盛り上がりました。

### 委員長:

2000年までは居場所と辞書を引くと、物理的な場を指していて、2000年以降は、居場所は精神的にほっとできる場所、居心地がいい場所というだけではなく、冷たい視線を受けずに済む場所というのがあります。それからもう少し進むと参画、何か新しいものを作れる場所というのが居場所に求められています。マンション、福祉施設、ショッピングセンターのスペースをうまく使えないか、また、学校は開かれた教育課程ということで地域と繋がることを模索しています。地域学校協働活動として、皆様の中にも小学校での登下校時の見守り活動、スポーツ指導をされておられる場合もあるかと思います。大阪府教育委員会では、「すこやかネット」という名称で教育コミュニティづくりに取り組んでいます。私は、毎年、福祉教育の中で学校の先生方への研修の講師をしていて、必ず社協の方にも来てもらっています。こういう形の中で連携できればいいかもしれませんね。

### C 委員(1グループ):

大きく2つテーマで話をしました。一つはこの調査報告書の中で A 委員のお話にもあったようにアンケート調査を受けていない方に対しても思いを馳せて何か取組をしていく必要があるのではないか、回答してくれた 58.1%以外の方が地域に関心がなく、繋がっていないこともあり得る可能性があります。繋がることに疎いという部分もあるかもしれないので、具体的な取組はこれからの議論ですが、時間や場所にあまり縛られないゆるい機会や、あとはきっかけとして、何かもらえるとかの気軽なきっかけから、その繋がりを太くしていくきっかけも大切じゃないかなという話がありました。

もう一つは、地域でのつながりが希薄な場合、地域に呼び込んでいくためのきっかけを作っていく担い手が不足していることから、地域住民だけではなく、福祉施設やNPO法人の方々と連携して、取組を広げていくということが大切ではないかとの話になりました。NPO法人と地域活動がうまく混ざり合っていない部分があり、うまく混ざり合えばいい機会がつかれるのではないか、その橋渡しをコーディネーターさん頑張ってくださいましたので頑張りたいと思います。

地域で人が交わっていくためにも顔が見える関係づくり、対話と交流のための場をまず作る方がいいのではないかという話が出ました。

### 委員長:

3つのグループから報告を聞かせていただきました。とても素敵やな、面白いなと思ったのは同じ生きがいづくりのテーマでも関心や、やってみようっていうところが違うっていうところに何か大切なことがあるということを感じました。行政や専門職がこうやなと思って提供していくのではなく、自分たちでこれができたらいいよねという主体形成は対話によりなされる印象です。

全くの無関心の方にはとても難しいので、気持ちはあるけど、一歩踏み出せない方を引っ張

り出す作戦というのも、この主役になれるというところを、アドラー心理学では、ほめるのではなく、その人自身ができるって実感できることや一歩踏み出すことを応援することが大事だと言われています。そのような中で万博は吹田で開催されたイベントであり、面白いなと思いました。高齢者の方にとっても自慢だと思われ、そのプロセスは当時の方しかお話できないので、万博の話が学校で聞かせようとか、そういう提案をしていくと、万博の盛り上がりにつながる可能性があります。その時の熱い思いを高齢者の方が、若い人や子ども達に話す仕組みがもしかしたらできるかもしれません。

それから、すごく素敵だなと思ったのは、場づくりと生きがいづくりの2つがいいよねっていうこと、つまり、何か具体的に集まったり、話し合いができる場を作っていくということ、マンション交流会が12月に行われたり、吹田市の強みの一つである施設連絡会は、地域と繋がりたいという思いを持っていて、社協の組織構成会員となっています。

また、他府県では、スーパーの空きスペース、イベントスペースにボランティアの方が来て、例えば、手芸のところで「やってみませんか」と声をかけて、立ち寄り方に関わってもらい、誰もが関わられるような、ちょっとした仕組みを作っているところもあります。今、志縁型で学校に働きかけをしている高齢者の方々もたくさんいらっしゃるので、生活支援コーディネーターに福祉教育の一環でもいいから働きかけていただけたらいいかと思えます。

何か得意なところをやってみようっていうところという、寝屋川市では、昔遊びボランティア養成講座を行い、昔遊びや壊れたおもちゃを直すおもちゃドクターを育成する、何か自分がお世話になるだけではなく、プライドをくすぐられるような仕掛けをどう作っていくか、次回はその具体的な方法について検討していただくと思います。キーワードは、気持ちはあるけど、一歩踏み出せない時のきっかけ、喜ばれる、感謝される経験を、どう提供していくかです。

ボランティアをされている方は喜ばれるという経験から活動が広がっていくし、元気になります。担い手づくりでは、志縁型と地縁型のマッチング、つまりボランティアの方と民生・児童委員・地区福祉委員の方が話し合える場を作っていくことで、何か生まれるかもしれない、そういう対話の場を作っていくと話合われました。

最後に、意見としては出ませんでした、私から提案があります。高齢者の方の場合、介護サービス利用は申請主義で御本人から日常生活が困難になってから動き始めますが、これからの専門職はお節介型、つまり、目配り、気配り、心配りができる人たちをどれだけつくれるか。これは仕掛けづくりとして、「地域でこのような取組がある」ことをヘルパーや専門職から利用者に情報提供していくことを検討してはどうかと思います。ヘルパーの方々からケアの雑談から把握した昔好きだったこと、興味ありそうなことを情報提供していくことです。逆にこういうことに興味を持っておられる方がいますよという情報提供できるような目配り、気配り、心配りの仕掛けづくり、アウトリーチ型の支援として本人、家族が意識をされていなくても、周りの人がそれに気づいて、仕掛けを作っていくことを提案させていただきます。

今回は課題の洗い出し、次回以降は、皆様からの意見を事務局がまとめたものをフィードバックして、具体的に検討していく予定です。専門職のちょっとしたお力を借りられるような仕組

くりも考えていけばいいかなと思っています。

#### 〔案件(4):その他〕

##### 委員長:

その他について、事務局からお願いします。

##### 事務局:

今回の令和6年度第3回すいたの年齢ネットにつきましては、令和7年2月10日(月)時間は13時30分から15時30分まで、会場は千里市民センターです。

また、第3回の前にマンション交流会もありますので、御参加をお待ちしております。

新崎委員長がおっしゃっていた専門職としての情報提供ということで、本市ではすいた年輪サポートなびの中に、吹田市ケア倶楽部という医療介護関係者の方が閲覧する行政との連絡サイトがあり、市報に掲載していない地域包括や社協が行う身近な地域でのイベントが掲載されています。これは別の協議会でケアマネジャーから、利用者の方に身近な地域で興味のあるイベントがあれば誘ってあげたいとの要望をいただき、掲載しているものです。軽度者の方であれば、興味がある取組を御紹介していただけたらと思います。

##### 委員長:

今の発言で思いついたのですが、今日見学に来ていただいた地域包括の皆様の中で、うちはこのような工夫をしている、逆に委員の方々のお話の中で、こんなことができたらいねというようなことを気づきや感想があったらぜひ聞かせていただけたらいいと思います。地域包括の方は現場でたくさん経験を積み重ねていると思いますので、無理のない情報提供を含めて、事務局で意見を聞いていただければと思います。参画していただいているので一緒にやってみましょう。

それでは、令和6年度第2回協議会を終了します。お疲れ様でした。

#### 〔閉会〕